

最近、子どもたちが犠牲になる事件が多発しています。そこで今月は、子どもの防犯について特集します。
子どもたちの安全を守るために、私たちには何ができるのでしょうか。



特集 子どもの 安全を守る

狙われる子どもたち

全国各地で子どもたちが被害者となる事件が多発する中、伊予市でも、平成17年中に不審者による子どもへの声かけやつきまといなどの事件が、6件発生しています。こうした事件は、市内の広範囲にわたり、増加傾向にあります。

このような事件に対して、子ども、保護者、地域住民が日ごろから注意すべきことを、伊予警察署生活安全課の楠田正志課長に伺いました。



伊予警察署生活安全課
楠田 正志 課長

子どもは、1人になった時が最も狙われやすく危険です。犯罪者は、幼い子どもに対しては「駅はどこ？」などと道を尋ねるふりをして近づいて来ることが多いよう

です。声をかけられても、決して行ってはいけません。また、一番狙われやすい時間帯は、下校時(13時~18時ごろ)です。中学生や高校生、塾に通う子どもたちは、さらに遅い時間に狙われることとなります。遠回りになっても、必ず明るい道を通り、1人にならないようにしましょう。

保護者の皆さんは、日ごろから子どもの行動を把握しておくことが重要です。子どもが外出する時は、必ず「だれと、どこで、何をするか、何時ごろ帰ってくるか」を聞いてください。また、子どものちよつとした変化を見逃さず、もし、危険な目にあつたことを聞いた時は、すぐに警察に知らせてください。警察が市内の学校等へ情報提供し、警戒態勢をとることで、犯罪の防止につながります。

また、地域の方々は、子どもたちを地域で守るという意識を持ってください。犯罪者が一番嫌がるのは「人目」です。多くの人が見守ることで、犯罪者がつけ入る隙をなくしましょう。

地域安全マップ



子どもたちの身を守るためには、子どもたち自身の危機意識を高める必要があります。その1つの方法として、「地域安全マップ」づくりがあります。

地域安全マップとは？

地域安全マップとは、犯罪や事故が起こりやすい場所を表示した地図のことです。実際に犯罪が起きた場所や、不審者が出た場所を含め場合もありです。地域安全マップの作成目的は、子ども自身の危険に対する意識を高めることにあります。

学校での取り組み

由並小学校では、昨年11月から「校区安全マップ」づくりに取り組んでいます。教師が下校時に児童に付き添い、全校児童96人に関して、通学路の確認や危険個所のチェック等を行いました。また、子どもたち自身が感じた危険個所も通学班会で話し合いました。こうした意見をもとに、通学班の集合場所、通学路の危険個所、「まもるくんの家」などの情報を地図に記入してきました。同校の栗田啓一校長は、「いつ、どこで危ない目に遭つかもかもしれない」という点では、すべての場所が危険個所と言えます。この地図を作ったことで、子どもたちや地域の防犯意識が高まっていくことを期待しています。」「校区安全マップに込める思いを話してくれました。

現在、この地図は校内に掲示されていますが、保護者の方々から見た危険個所などの情報も取り入れ、有効な活用法について考えていくつもりです。

子どもたちを守るために

守るために

子どもたちを守るための学校での取り組みを、伊予市内校長会会長で北山崎小学校校長の岡田妙子先生に伺いました。



北山崎小学校
岡田 妙子 校長

子どもを巻き込む事件が多発化・凶悪化する中、日ごろの保護者・地域の皆さんの見守り活動に対するご協力に感謝しています。

各学校では、「子ども自身が自分の命を守る」という指導をすることにも、学校規模や地域の実情にあわせて、安全マップづくり、通学路の点検、教員による下校指導など、これまで以上に取り組んでいます。また、見守り隊の結成や運営方法などについて

いかのおすし

おぼえておこう！

- いか 知らない人についていかない
- の 知らない人の車にのらない
- お 大声をだす
- す すぐ逃げる
- し 知らせる



—子どもたちを犯罪から守るための標語です—

ても、学校同士で情報交換を行っています。

保護者や地域の方々にも見守りを呼びかけ、子ども、教員、保護者や地域が一体となった対応をしています。目が行き届かないところも多く、今後も見守り活動を継続していく方法を考えているところです。すべての家庭が「まもるくんの家」であるという意識を持つていただき、地域の方々にも、見守り活動へのさらなるご協力をお願いいたします。

子ども見守り隊

地域コミュニティが希薄になってきた現在、子どもたちを見守るために再び地域での“人と人とのつながり”が求められています。私たち地域住民にできることはないのでしょうか。



子どもを見守りたい

北山崎小学校では、不審者出没の情報を受け、平成16年1月に『北山っ子見守りたい』を発足しました。蛍光色のユニフォームや腕章を身につけて、月に2回程度、教師と保護者を中心に子どもたちの下校時にあわせてパトロールを行っています。下校途中には、通学路の危険個所を子どもたちと一緒にチェックし、それを以前に作成した安全マップに追加記入するといった作業も行っています。

みんなができる範囲で 長続きする活動を

活動を支える校外指導部の保護者のひとは、「こつした見守り活動は、それぞれが負担にならない範囲と時間で、できるだけ多くの人が参加してもらい、長続きさせることが大切だと考えています。」と活動の秘訣を話してくれました。

このほかに、協力の申し出があった地域の方にも腕章を渡して、家の近くなどで見守ってもらうことで、保護者だけでは足りない部分を助けてもらっているそうです。このように、子どもの見守り活動に協力してくれる方を着実に増やしていくことが、これからの課題です。

あなたにも

できることがあります

「子どもたちを心配する気持ちはあっても、不用意に声をかけたら、不審に思われるのではないかと。」そんな心配があるかもしれません。

しかし、例えば犬の散歩や田畑の見回り、自宅周辺の清掃など日常で行っていることを、子どもたちの下校する所に見えたり、車や自転車の見える所にも立派な見守り活動です。

一人でも多くの大人が、できる範囲で見守ることが、犯罪の抑止につながります。子どもたち自身を守ることに、大人が見守っていくこと、その両方が必要なのです。

知っていますか？「まもるくんの家」



▲このマークが目印です

子どもが怖い思いをした時に駆け込むことができる「まもるくんの家」をご存じですか。ここでは、子どもが不審者に声をかけられるなどして駆け込んで来た際、子どもを保護し、警察へ連絡してくれます。市内でも約200件の商店やご家庭に登録していただいています。

子どもと一緒に通学路など地域の「まもるくんの家」を確認し、何かあったらそこに逃げるよう教えてください。

安心・安全パトロール

子どもに対する治安面での不安が高まる中、伊予市では、昨年末から公用車50台に「防犯パトロール」ステッカーを貼り、地域の防犯意識の高揚を図っています。

